

平成 23 年の神戸観光（観光入込客数）について

◆概況◆

平成 23 年の神戸への観光入込客数は、観光地点で日帰り客 1,408 万人、宿泊客 441 万人の合計 1,849 万人となり、前年の観光地点と比較すると 6.0%の減少となった。また、行祭事・イベントは 1,247 万人となり、前年の行祭事・イベントと比較すると 1.7%増加した。

東日本大震災の影響による春季観光シーズンの全市的な利用者数の減少や外国人観光客の減少などにより日帰り客は全市で 131 万人減少したものの、宿泊客は 12 万人増加し、観光消費額としては 2,681 億円となり前年を上回った。また、行祭事・イベントでは第 1 回神戸マラソンの開催や、KOBE ビエンナーレ 2011 の開催などにより前年を 21 万人上回った。

《全市での観光入込客数・観光消費額》 ※消費額単価：日帰り客 8,655 円・宿泊客 33,161 円

	年	観光地点 (H22年比)	観光消費額
日帰り客	H23	1,408万人 (91.5%)	1,219億円
	H22	1,539万人	1,285億円
宿泊客	H23	441万人 (102.8%)	1,462億円
	H22	429万人	1,300億円
合計	H23	1,849万人 (94.0%)	2,681億円
	H22	1,968万人	2,585億円

年	行祭事・イベント (H22年比)
H23	1,247万人 (101.7%)
H22	1,226万人

《エリア別の観光入込客数》

地区	年	観光地点	行祭事・イベント
市街地	H23	1,265万人 (92.2%)	1,128万人
	H22	1,372万人	1,112万人
うち北野	H23	77万人 (95.1%)	20万人
	H22	81万人	31万人
神戸港	H23	235万人 (88.0%)	94万人
	H22	267万人	63万人
六甲・摩耶	H23	183万人 (88.0%)	1万人
	H22	208万人	2万人
有馬	H23	129万人 (97.0%)	2万人
	H22	133万人	1万人
須磨・舞子	H23	358万人 (93.7%)	22万人
	H22	382万人	26万人
西北神	H23	272万人 (136.7%)	—
	H22	199万人	23万人

※エリア間の移動があるため、全市の合計とは一致しない

◆エリア別の状況◆

○市街地エリア

特別展の有無により利用者数が左右される美術館・博物館をはじめ、全体的に見て利用者数が減少した施設が多い。利用者数が増加した施設としては、リニューアルオープンした神戸布引ハーブ園や、震災学習関連の利用者数が増加した人と防災未来センターなどがあげられる。

行祭事・イベントの来場者数は、第1回神戸マラソンなどの大規模イベントの開催により前年を上回った。

○北野エリア

2月～3月末まで風見鶏の館・ラインの館の休館があり、さらに東日本大震災の影響等も懸念されたが、ゴールデンウィーク以降は概ね回復し利用者数はほぼ前年並みとなった。

行祭事・イベントではインフィオラータこうべ 2011 の来場者数が減少したことにより前年を下回った。

○神戸港エリア

神戸ポートタワーや神戸海洋博物館などの利用者数が増加したものの、利用者数算出のベースとなる観光動向調査での神戸港エリア観光地点への訪問率の減少や、一部客船の利用者数減により、観光地点としては前年比-12%となった。

行祭事・イベントでは、KOBE ビエンナーレ 2011 の開催などにより前年を大きく上回った。

○六甲・摩耶エリア

利用者数が前年を下回る施設が多く、利用者数算出のベースとなる観光動向調査での一人あたりの立ち寄り施設数が増加したことや、10月後半から11月にかけて週末の悪天候が影響したこともあり伸び悩み、前年比-12%となった。

○有馬エリア

太閤の湯殿館では夏季無料開放により利用者数が増加したが、金の湯・銀の湯の利用者数の減少などにより、観光地点としては前年並みとなった。

○須磨・舞子エリア

須磨海浜水族園では新施設イルカ“ふれ愛”プール「ドルフィンピース」のオープンなどにより利用者数が大きく増加したものの、その他施設の利用者数は伸び悩み、観光地点としては前年比-6.3%となった。

○西北神エリア

フルーツ・フラワーパークでは神戸イルミネージュ 2011 の開催により、利用者数が大きく増加した。また、大型商業施設に観光目的を兼ねて訪れる利用者が多かったこともあり、観光地点としては前年比 36.7%の増加となった。

《参考:公立施設等の来場者数》

産業振興局調べ(単位:万人)

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	前年比
風見鶏の館	33.4	34.1	36.0	32.1	23.9	74.5%
北野工房のまち	84.5	82.9	73.2	74.8	71.4	95.5%
神戸布引ハーブ園	21.9	21.0	25.5	24.5	29.1	118.8%
市立博物館	49.6	48.1	13.7	30.0	26.5	88.3%
兵庫県立美術館	48.1	55.9	88.9	107.1	63.8	59.6%
人と防災未来センター	52.4	51.8	28.2	29.3	34.5	117.7%
王子動物園	137.3	141.5	142.5	130.4	128.1	98.2%
青少年科学館	33.7	34.3	36.9	33.3	36.2	108.7%
神戸ファッション美術館	18.0	18.5	20.9	19.0	18.1	95.3%
神戸ポートタワー	35.7	32.4	38.3	33.4	37.2	111.4%
神戸海洋博物館	21.9	19.9	18.6	19.1	20.0	104.7%
六甲山牧場	33.9	33.1	38.1	29.4	29.7	101.0%
森林植物園	24.7	22.8	23.8	20.5	19.8	96.6%
有馬温泉金の湯・銀の湯	45.4	43.8	43.0	38.4	36.4	94.8%
有馬の工房・太閤の湯殿館	9.5	9.6	10.2	9.2	9.5	103.3%
須磨海浜水族園	110.7	111.0	137.2	105.2	115.9	110.2%
須磨離宮公園	25.3	25.2	22.4	26.4	25.1	95.1%
海づり公園(須磨・平磯)	18.4	18.6	18.7	16.1	15.3	95.0%
舞子海上プロムナード	20.6	22.0	18.6	19.2	18.1	94.3%
農業公園	21.2	21.9	20.6	20.3	19.0	93.6%
フルーツ・フラワーパーク	61.9	51.4	52.7	45.7	59.3	129.8%

《参考:共通基準について》

平成21年まで、神戸市では観光施設の利用者やイベントの来場者の合計に基づいて観光入込客数を算出してきたが、平成22年分から国(観光庁)が策定した「観光入込客統計に関する共通基準」(以下「共通基準」という)に準じて算出している。

※観光入込客統計に関する共通基準

各都道府県の「観光入込客数」「観光消費額単価」「観光消費額」等を把握するための調査手法や集計方法を示した調査基準。各都道府県の観光入込客統計は、各都道府県独自の手法により調査・集計されており、集計結果についても、年度集計と暦年集計の違いや、実人数と延べ人数の違いがあるなど、各都道府県の発表するデータ間での比較ができなかったため、相互に比較可能な信頼性の高い統計を作成する目的で、平成21年12月に観光庁が策定・公表した。